



おいしく たのしく すこやかに



森永製菓株式会社

NEWS RELEASE

2025 年 7 月 30 日

森永製菓と伊藤園、日本通運を通じて持続可能な物流連携

群馬～北海道間における重軽混載による共同輸送を開始

森永製菓株式会社（東京都港区、代表取締役社長 COO・森 信也、以下森永製菓）と株式会社伊藤園（東京都渋谷区、代表取締役社長・本庄 大介、以下 伊藤園）は、両社の物流パートナーである日本通運株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長・竹添 進二郎、以下 日本通運）を通じて、群馬～北海道間における重軽混載による共同輸送を 2025 年 7 月から開始しました。



▲下段に伊藤園飲料、上段に森永製菓菓子を混載

昨今、トラックドライバーの人手不足や物流における環境負荷低減など様々な社会課題が重視されています。森永製菓と伊藤園は、両社の物流パートナーである日本通運を通じて、群馬～北海道間における菓子（軽量物）と飲料（重量物）の重軽混載による共同輸送の検証を行い、2025 年 7 月から本格稼働を開始しました。

この取り組みでは、重量貨物であることから荷台で 2 段積みができない伊藤園の飲料を、1 段積みした際の上部空きスペースに軽量貨物である森永製菓の菓子を積むことで、荷台の容積を隙間なく有効的に積載して共同輸送を行います。また、一般的に協業混載を行う際は、積み下ろし箇所が増えることにもなるためトラックドライバーの長時間労働が課題となりますが、本取り組みでは日本通運が車両の手配や群馬県内の出荷倉庫を調整し、積地を 1 カ所に集約することでこの課題を解消しました。

これにより、森永製菓と伊藤園が個別に群馬～北海道間で製品を輸送していた従来の方法に比べて、積載率が向上し、トラックの使用台数を約 24%削減できます。また、CO₂ 排出量も約 6%削減できる見込みです。

森永製菓と伊藤園、日本通運は、環境負荷の低減を通じて持続可能な社会を実現するために、物流の効率化と環境配慮の取り組みを推進しています。今後も、持続可能な物流連携を行うパートナーシップをはじめ、お客様に安全・安心な製品を持続的にお届けするため、業界や業種を横断して効率的な物流体制を構築し、持続可能なサプライチェーンの構築を目指してまいります。

■群馬～北海道間における重軽混載による共同輸送のスキームについて

森永製菓と伊藤園は、これまでそれぞれ群馬～北海道間で製品を輸送していました。今後は、森永製菓の製品を伊藤園の倉庫に移動させ、重軽混載により群馬～北海道間で製品を共同輸送し、北海道内にあるそれぞれの倉庫へと届けます。これにより、従来と比べて積載率が向上し、トラックの使用台数を約 24%削減できます。また、CO₂ 排出量も約 6%削減できる見込みです。

